

KANSAI * OSAKA

文化力

No.137

2022/SPRING・春

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

特集

学校アートプログラム

トップインタビュー 企業と文化

生駒京子氏 (株式会社フロアシスト代表取締役社長)

大阪中之島美術館オープン

KANSAI SPIRITS | 「ロナ禍のアーティストたち

落語家 桂小鯛さん 桂二葉さん

助成事業紹介

日本万国博覧会記念基金

アーツサポート関西

開催レポート

- ・第21回上方花舞台
 - ・町人文化を味わう
 - ・日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021
 - ・令和3年度関西元気文化圏賞受賞者発表
- 村瀬先生の「ぶらり関西歴史旅大阪・なんば編



豊かな感性と自主性から文化芸術の活性化を

学校アートプログラム

(文化芸術による次世代育成事業)

2021年度から始まった関西・大阪21世紀協会の「学校アートプログラム」。アーティストを学校に派遣して、継続的な体験授業を行う取り組みだ。仲間とともに創造する体験が、子どもたちの人間力や思考力などを育むきっかけとなることを期待している。

コミュニケーションを図り
友だちや自分の新たな
一面を見つける



どうすれば思いを
表現できるかな?



これはなんだろう?
疑問や興味をもつ



関西・大阪21世紀協会の新しい試み

このプログラムの目的は、アーティストに活動の場を提供するだけでなく、鑑賞者や体験者を増やして芸術のすそ野を広げていくことにある。特に次代の文化芸術の担い手となる子どもたちに焦点をあて、心身の成長が著しい小学4～6年生を対象とし、アートを身近に感じてもらえるようプログラムを展開する。

派遣授業は、同じ子どもたちに年間3回以上行うものとし、

作品鑑賞・体験と複数回にわたってアーティストと触れ合う機会をつくりだす。

授業の中で子どもたちはアーティストの「ものの見方」「感性」「考え方」に触れることになる。このような鑑賞を含めた芸術体験が「思いを言葉や形にする力」「他者を認め、協働する力」「主体的に考え、行動する力」「思考する力」などの向上を促し、豊かな感性と自主性をもつ人材へつなげるものと考えている。

複数年の継続実施

こうした取り組みは、国(文部科学省、文化庁)の施策としても行われているが、効果をはかるには長期的な取り組みが必要となることから「学校アートプログラム」では3年間継続して実施するモデル校を設定している。

また、プログラムが子どもに対して、どのように作用しているのか評価をするために、教育、行政、美術館教育普及に携わる専門家からなる「評価委員」を選出している。実際に授業を見て「子どもたちどのように影響を及ぼしたのか」「効果があるのか」ということだけでなく、授業の進め方や各プログラムの内容な

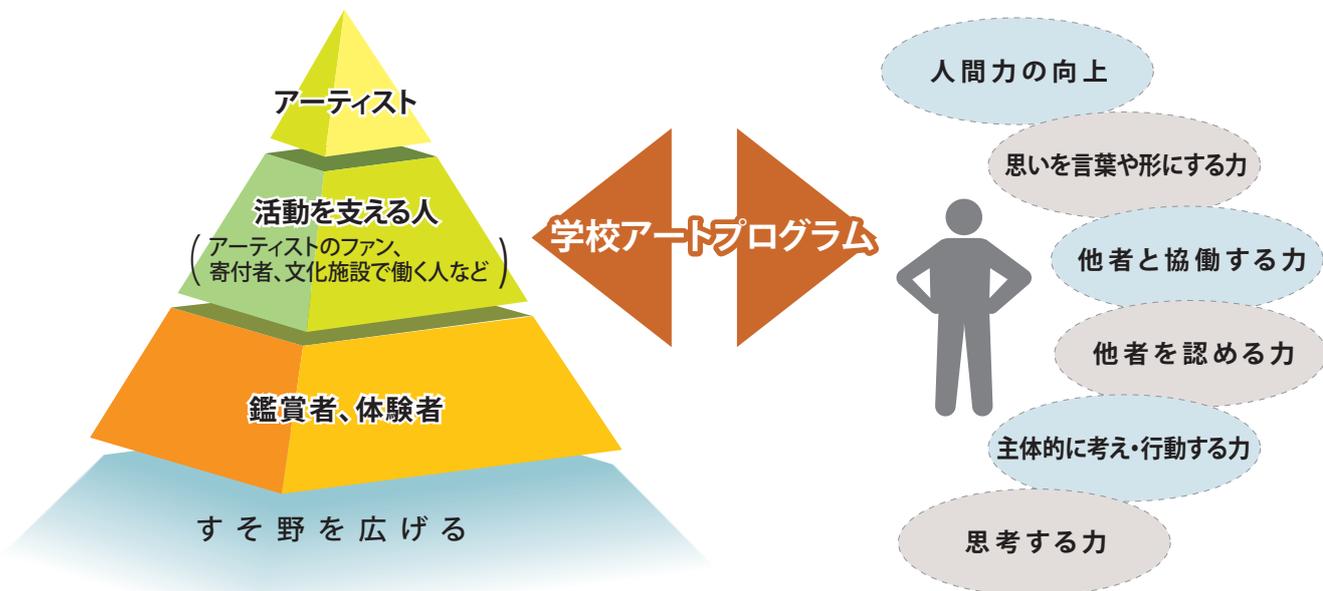
ど全体を通して評価を行い、次年度に向けて更にブラッシュアップさせていく予定だ。

このプログラムにより、子どもたちが豊かな感性をもつ大人へと成長し、ますます複雑化する社会を生き抜く力を養うことを期待している。

実施校	実施内容	派遣アーティスト
泉南市立新家小学校 <small>しんげ</small>	映画作り(タブレット使用)	前田 耕平
泉南市立東小学校 <small>ひがし</small>	インドネシアの音楽と影絵体験	Hanajoss(ハナジョス)
阪南市立下荘小学校 <small>しもしよう</small>	教室に潜む形を使ったスタンドガラス模様作り	野原 万里絵
岬町立深日小学校 <small>ふけ</small>	水平線から生まれるアニメーション作り(タブレット使用)	林 勇氣

関西・大阪の文化芸術の活性化

豊かな感性と自主性をもつ人材へ



2021年度の派遣アーティスト



前田 耕平氏

1991年和歌山県生まれ。大阪を拠点に活動。人や自然、物事との関係や距離に興味を向け、様々なアプローチで探求の旅を続けている。自身の行為と体験を手がかりに、国内外で映像やパフォーマンスなどの作品発表を行う。個展のほか、紀南アートウィーク2021などに参加。



Hanajoss

2002年にジャワ島ジョグジャカルタで結成されたジャワ芸能ユニット。ジャワの伝統音楽ガムランと影絵芝居ワヤンの上演、ワークショップ、作曲、演奏指導、アーティストや子どもたちとのコラボレーションを中心に、2005年より大阪を拠点に活動している。



野原 万里絵氏

2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了。絵画を描く際の感覚的かつ曖昧な制作過程に関心をもち、自ら制作した定規や型紙などの道具を用いた絵画作品を発表。他者とのコミュニケーションを通して、絵画の新たな可能性を模索している。



林 勇氣氏

関西を拠点に活動する映像作家。身近な風景やものを写真で撮影し、切り取った断片をつなぎ合わせて再構成・映像化した作品を国内外の美術展や映画祭で発表。主な個展に2016年「電源を切ると何もみえなくなる事」(京都芸術センター)、主な作品収蔵に徳島県立近代美術館など。

子どもたちは何を学び、どう変わったのか ——

「学校アートプログラム」を通して、子どもたちは何を学び、どのように変化したのか。また、現場の教師の方々はどのように感じ、今後どのような展開を期待されているのか。モデル校(3年継続)として実施された新家小学校と東小学校の両校長に、今年2月、当協会崎元利樹理事長がオンラインで伺った。



泉南市立新家小学校 校長
こつぎ じゅんいち
木次潤一氏



泉南市立東小学校 校長
うえだ ひさかず
上田久和氏



関西・大阪21世紀協会 理事長
さきもと としき
崎元利樹

普段とは異なる姿

崎元 この度は当協会の「学校アートプログラム」にご参加いただき、ありがとうございます。当協会はアーティストの支援などを通して文化による関西・大阪の活性化を目指していますが、そのためには次代を担う子どもたちの可能性を伸ばすお手伝いもするべきだと考え、2021年度から本事業に取り組んでいます。そのモデル校として実施された両校の校長先生は、子どもたちや担任の先生のような様子をご覧になって、どのような印象をもたれましたか。

木次 新家小学校では4年生の32名がプログラムを受けました。本校の4年生はこの1クラスだけで、これを5～6名の小グループに分け、子どもたちはアーティストたちと一緒に撮影の仕方や演技方、編集の仕方などを考え、協力して制作を進めました。その中で、いつもおとなしい子が率先して話し合いの中心になっていたり、進んで役割を引き受けたり、普段の授業では見られない姿が多く見られました。人前で演技をするとは思えない恥ずかしがりの子でも、みんなの頑張りを見て挑戦しようとしているし、それを和気あいあいと楽しんでいるように、子どもの自主性や協調性が表れて嬉しく思いました。

また、子どもたちはやっているうちにタブレット端末や編集ソフトの扱いに慣れ、どんどん上達していきました。そして、これで

満足し切るのではなく、「もっとやれたら良いものができたのに」という思いを残しつつプログラムを終えたことが、今後の意欲や向上心につながって良かったと思っています。実施後のアンケートには「映画を撮ってみたいになった」「自分たちの作品が完成してよかった」という感想が多く、良い経験をさせてもらったと評価しています。

上田 東小学校では、4年生の13名がインドネシアの伝統的な音楽と影絵作りに挑戦しました。最初、子どもたちも担任教師も、それがどんなものか分かりませんでした。そのため非常に興味深く、楽器や影絵に初めて触れた子どもたちには新鮮な驚きがありました。自分たちにできるのかという不安もありましたが、最終的にはセリフや細かい表現を自分たちで考え、全校児童を前にした上演にこぎつけました。

子どもたちは、励ましあったり、教えあったりして取り組みました。そうして完成し、発表会で歓声や拍手を受けたことで成功体験を得たし、自尊心も高まったように思います。終了後のアンケートには、「友だちのこんな良いところを見つけた」とか、「またやりたい」という前向きな気持ちが書かれていました。

また、インドネシアという国について学び、同国の人と接して国際理解にもつながったし、その知識を他の児童にも教えてあげるなどして、本校が目標とする「4つの力」(人を大切にす

泉南市実施小学校概要(ホームページより)

泉南市立新家小学校

創 立 1874年2月7日
児 童 数 212名
教職員数 20名
教育目標 『強く 正しく 伸びゆく子』



「安心、自信、笑顔でつながる学校」をスローガンに、子どもが自分の活動に自信をもてるよう、失敗を恐れずトライできる指導に取り組む。

泉南市立東小学校

創 立 1872年8月5日
児 童 数 94名
教職員数 15名
教育目標 『みんながわくわく学び合える学校』



「健康・成長・無事故・仲良し」をキーワードに、「人を大切にする力、自分の考えを持つ力、自分を表現する力、チャレンジする力」の4つの力をつける教育に取り組む。



タブレットでシーンを撮影(新家小学校)

る力、自分の考えを持つ力、自分を表現する力、チャレンジする力)を育むきっかけになったと思います。他の学年の児童も楽器や影絵に興味をもち、上演を観てわくわくした気持ちをもったと思います。

崎元 私も東小学校でプログラムのようすを拝見しました。その際、担任の先生から、他の学年の児童もやりたがっていると聞いて嬉しく思いました。また、子どもたちがイキイキと取り組んでいる姿を見て、決められた答えではなく、自分なりの答えを導き出す機会を提供したことで、子どもたちの前向きな心のスイッチを押すことができたように思いました。両校とも担任以外の先生方にも色々とお手伝いいただきました。プログラムを通して先生方にも新たな気づきを得ていただけたならば、子どもたちにも良い影響を及ぼすのではと期待しています。

さて、両校にはモデル校として、引き続き2年間同じクラスで、また別のプログラムを受けてもらいます。今後の取り組みに対するご意見などをお聞かせください。

繰り返しチャレンジする大切さ

木次 プログラム(映画作り)で習得したことを活かせば、子どもたち自身で「手洗いムービー」や「学校紹介ムービー」とい



楽器(ガムラン)で作曲(東小学校)

た啓発・広報ムービーを作り発信することもできます。それを続けていくことで、プログラムを受けた4年生が6年生になったときには、自分たちで自分たちのことをプロデュースする力が身につくのではないのでしょうか。そのためにも単発で終わるのではなく、継続してプログラムを実施することが大事だと思います。体験回数が増えれば心に残ることも増えますし、失敗を恐れずリトライできる土壌を学校に作るためにも、子どもたちには繰り返しチャレンジする大切さを学ばせたい。今後も継続していただきたいと思っています。

上田 おっしゃるとおりですね。本校でも継続して取り組むことで、子どもたちが高学年になるにしたがって自分を表現する力をつけることを願っています。そして身につけた表現力や発信力をもって、今度は自分たちが下級生に教えたり、他の学年の児童の目標になったりすれば、全校的な広がりになっていくでしょう。そうすることで、自分たちの学校は自分たちで作っているんだという意識を持ってくれることを望んでいます。また、自分の考えを表現する力がつく自尊感情を高めることにもつながりますので、来年度もまた何かに挑戦させてやりたいと思っています。



泉南市の教育の取組と学校アートプログラムについて

泉南市教育委員会 教育長 富森 ゆみ子 氏

令和3年度から、泉南市では公益財団法人 関西・大阪21世紀協会様と協定を結び、「文化芸術による次世代育成事業」を行っており、本市の子どもたちの育成に対し、御理解・御協力賜り心より感謝申し上げます。

本市は目指す子ども像として「希望と力をもちたくましく生き抜く子ども」を掲げております。子どもの言語能力の確実な育成、情報活用能力の育成、子どもが自ら主体的に学ぶ力の育成を目指しております。また、豊かな人間性と社会性を育むための規範意識や自他を尊重する心を育てる人権教育や道德教育にも力を入れております。

本事業では、まさに本市が求めている教育が実現されております。子どもたちが、本物の芸術家に出会い、芸術に触れる体験を通して、芸術に興味をもち、多様な価値観を学びながら豊かな人間性を育むものとなっております。

また、芸術作品を完成させるという目標のもと、子どもたちがアイデアを出し合い、対話によって創り上げるという学習を通して、言語活動の充実や学びに向かう力も向上していくものと期待しております。さらには、タブレットを使用し、ビデオの編集や音楽ソフトを活用するなど、ICT教育の充実が図られるなど、これからの学びに大いに役立つものと認識しております。

今後も、本事業を通して、泉南市とタイアップした取組に加え、本市で任用しているJETプログラムのメンバーも参画し、国際交流などの取組を通じて、泉南市の子どもたちの感性がより一層磨かれていくことを期待しております。



泉南市・泉南市教育委員会と連携協定を締結



効果音なども入れて編集(新家小学校)



影絵人形(ワヤンクリ)を使って練習(東小学校)

アートで子どもの可能性を広げる

木次 今はリモートでどんなところともつながれますから、お互いの学校の成果をリアルタイムで見せ合うこともできます。本校と東小学校だけでなく、市域を越えて、もっと遠くの小学校とつながることもできます。そうすることで、子どもたちの成果がもっと有益な形として残るのではないのでしょうか。

上田 小規模校では、子どもたちが大勢の前で発表できないという難点がありますから、いろんなところと交流できれば、子どもたちの視野を広げることにつながります。ましてコロナ禍にあっては子どもたちも閉じこもりがちになり、ストレスが溜まっています。リモートでも発信・交流できれば、子どもたちを元気づけることになるでしょう。

木次 例えば東小学校の4年生が作った影絵を、国を越えて

インドネシアの小学生に見てもらうこともできますね。そして子どもたち自身が英語でイントロデュースすれば、英会話の実地体験になるし、国際交流の機会にもなる。アートを入口として始めたプログラムですが、出口はすごく広く、まさにグローバルです。そうしていろんな可能性を伸ばすことで、学校としても成長していけると思います。

崎元 「学校アートプログラム」は、アーティストとの共同作業によって、芸術面に限らず子どもたちのさまざまな可能性を育むことを目的としています。その意味で、出口がどのように広がっていくのか非常に楽しみです。2年目以降についても先生方と相談しながら、子どもたちの心に残るプログラムを進めてまいります。この度はどうもありがとうございました。

参加児童のコメント (アンケートより抜粋)

泉南市立新家小学校4年生(映画作り)

- どういう表現をしようか全員で考えて語り合っ、いい表現を出そうとしました。(映画)を作るすごい人になれるように努力して、がんばろうと思いました。それで一番思っているのが、あと何十回もやりたいことです。
- 最初は「ちゃんとできるかな?」と心配していたけど、やってみるととてもわくわくしてきました。最後の上映会は、ちょっとはずかしかったけど、みんな協力して作った映画は、とてもおもしろかったです。
- 自分でもみんなと新しい映画を作れるんだなあ～と思いました。

泉南市立東小学校4年生(インドネシアの音楽と影絵体験)

- 本番のとき、何か間違えても見てくれた人たちがずっと拍手してくれました。いろいろな人達にかこまれるとあたたかい気持ちになりました。
- 難しかったらすぐに教えてくれるから、本番も成功できた。成功できたらほめてくれるし、間違えても大丈夫と言ってくれたり、やさしくしてくれたりしてありがとう。
- 今回の発表で、今まで以上の広い世界を見ることができて、今後の活動につながると思いました。

新家小学校、東小学校でのアンケート結果(抜粋)

みんなが表現するのを見たり、聞いたりするの楽しかった...91%

どちらとも言えない 7%
あまり思わない 2%
まあまあ思う 12%



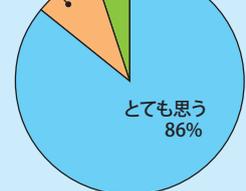
みんなと力を合わせて取り組むことができて楽しかった...93%

どちらとも言えない 5%
あまり思わない 2%
まあまあ思う 19%



またやってみたいと思った...95%

どちらとも言えない 5%
まあまあ思う 9%





株式会社プロアシスト
代表取締役社長

生駒京子氏

いこまきょうこ

社員の幸せをモットーに ギブ・アンド・ギブの精神で社会に貢献

企業の制御系システムや基幹業務システムの開発をITを駆使して支援するプロアシスト。創業者で社長の生駒京子氏は、システムエンジニアから専業主婦を経て起業した経歴を持つ。その行動力・発想力の源や企業経営への思い、関西・大阪の経済や文化の活性化に向けた課題などについて、当協会の崎元利樹理事長が伺った。

全力で与える

崎元 生駒さんが起業しようと思われた動機をお聞かせください。

生駒 1992年に13年間の会社勤めを辞め、1年半ほど専業主婦をしました。その生活に幸せを感じていましたが、当時はバブル崩壊で日本経済が大打撃を受け、テレビや新聞では連日暗いニュー

スばかり。私のような技術職から畑違いの配置転換を強いられて心を病み、自ら命を絶つ人もいることを知りました。こんな状況で日本の将来はどうなるのかと不安になり、もう一度社会に出て貢献したいと思ったのです。しかし就職するにも履歴書に書く内容がほとんどありません。そこで、自分のやってみたいことや、こんな会社があればいいなと思うことを書き出したらアイデアがどんどん出てくる。ならば起業しようと決めました。“プロの方々の課題解決をアシストするプロフェッショナル”という意味で社名を「プロアシスト」としました。

お客様に信頼されるためには、“ギブ・アンド・テイク”ではなく、“ギブ・アンド・ギブ”の精神が大切だと思っています。会社員時代、

大手ソフトウェア会社から大手電機メーカーの研究所に1年間出向したことがありました。自社開発のOS(オペレーティングシステム)マシンを導入してもらうのがミッションです。最初、製品説明のチラシを配って回ったのですが、誰も見向きもしてくれません。そこで私は、研究所の食堂に毎日通い、人々の雑談に聞き耳を立てました。そんなある日、「プログラムの入力に1週間もかかって困る」とこぼしている研究員を見つけ、「私なら1日でできます。その方法もお教えします」と申し出て、その仕事を引き受けました。これがきっかけで「生駒の研究室に行けばタダでC言語(コンピュータプログラミング用の言語)を教えてもらえる」と評判になり、1年でミッションを果たすことができました。相手のためにどうすればいいかを一生懸命考え、全力で“与える(ギブ)”ことに取り組めば、とても喜ばれ計り知れない“テイク”が返ってくることを実感しました。これが“ギブ・アンド・ギブ”の精神です。また、全身全霊をかけて取り組むことで相手の心を動かし、助けていただいたことも数多く経験しました。男性は一步家を出ると7人の敵がいるといわれますが、女性が全力で取り組めば100人の味方がいると思っています。

コンピュータとの出会い

崎元 そういう行動力や発想力はどのようにして培われたと思われますか。

生駒 両親が共に学校教師で、私が小学生の頃は一人で留守番しなくていいように、月曜から土曜まで習い事がありました。ピアノ、フィギュアスケート、スイミング、英会話などです。中学生のとき、担任の先生から生徒会副会長に立候補するよういわれ、全校生徒を前に選挙演説をしました。3歳からピアノを習っていたおかげで大勢の前で発表する度胸がついていた私は、このとき緊張するどころか快感を覚えたのです。何事も全力で向き合い、プレッシャーすら楽しむタイプの私は、生徒会選挙もそうして楽しんだのだと思います。

とはいえ全くやる気をなくしたこともありましたが、数学が大好きだった私は、将来は両親のように教師になると決めていました。しかし、母の勤めていた学校が警察沙汰を起こすほど荒れていて、教師になるのを猛反対されました。目標を失った私は大学受験をせず、遊び気分で浪人生活を送りました。見かねた母が「これからは情報化時代だ」と、大阪電気通信大学への進学を勧めてきたのです。母はコンピュータのことなんて何も知らないのに。でも、その言葉に従って大学でコンピュータを学んだことで、社会に出て働く意欲が湧きました。

学生時代にアルバイトで小さな洋服店を任されたことがありました。当時はパソコンが普及しておらず、顧客分析もせず、お客様一律に同じ内容のDMを出していました。そこで私は、ノートに手書きされた購入履歴を分析し、個々のお客様に合わせた商品のDMを出してみたら、販売成績がグンと上がり、その会社からは入社を勧められました。先ほどお話しした食堂での作戦は母親譲りの文系的発想で、情報分析で結果を出す考え方や、出向先でC言語教室を開くなどして課題解決をサポートしたのは父親譲りの理系的行動ですね。

プロアシスト・フィロソフィ

崎元 創業者として、どのようなことを信条にしておられますか。

生駒 会社を立ち上げたからには、未来永劫にわたり不滅で前進し続けなくてはならないと思っています。会社が窮地に陥れば社員本人だけでなく社員のご家族も困りますし、ご家族が社員の働き方に不満を持つと、その社員は働きにくい。当社では「社員の精神的物質的幸福」を存在要件に掲げ、社員のご家族にも当社のファンになってもらうべく、家族同伴でレクリエーション行事を行っています。

崎元 御社には「生駒塾」という塾があるそうですが、どのようなものですか。

生駒 社員研修の一つです。創業当初から8年間は業務的なことをレクチャーしていましたが、その後は社員が育ってきたので、そうした実学は外部講師にお任せし、私は理念教育に専念しています。当社の経営方針や豊かな人生を送るための心の持ち方など、「プロアシスト・フィロソフィ」と呼んでいる経営哲学です。「生駒教」なんていわれたりもしますが、単なる精神論ではなく、どうすればお客様や周囲の人々から信頼される人間になるのか、具体的な行動指針を示して社員の気づきを



プロアシスト本社リフレッシュルームにて

促すものです。毎月何名かを選んで私が話をしてきました。それをまとめたものをテキストにして全社員に配布しています。キリストの教えを使徒が広めたようにといえば、やっぱり生駒教だと笑われそうですね。



生駒塾のテキスト

イノベーションを促す連携力

崎元 昨年5月に関西経済同友会の代表幹事に就任され、ウイズコロナ時代の経済界の舵取りを託されました。同友会での取り組みや関西経済の活性化のために、今何が必要だと思われますか。

生駒 先輩方のバトンをしっかり繋いでいくことに加えて、同友会が提言組織だからといって提言だけで終わるのではなく、実行が伴う集団に変えていきたいですね。そのためには840名の会員の方々の「個」の強みを活かして、小さなことからでも行動に移すことが大事だと思います。

また、関西には多様な産業や固有の技術があり、近年は医療・創薬をはじめ半導体など材料メーカーの存在感が際立っています。学術、医療の研究機関が集まるけいはんな学研都市や神戸医療センターがあり、大学や学生の数も他の地域に比べて非常に多い。ノーベル賞受賞者を多く輩出し、アカデミックの分野でも多数の新技術が生まれています。こうした強みを活かして、企業、大学、研究機関などが密に連携することで、イノベーションの数や速度はもっと大きくなるでしょう。現在、関西各地で産官学連携の取り組みがなされていますが、それらは“点”に終始して面の広がりがない。各取り組みの垣根を越えて交流する仕組みづくりが必要だと考えます。神戸、京都、大阪（関西）の3つの経済同友会も連携すれば、もっと広がり実効力のある活動が行えるでしょう。アイデアは一人より何人かで考えると生まれやすいし、何気ない会話から思いつくこともある。オンラインによるコミュニケーションが一般化した今こそ、連携しやすい段階にきていると思います。

中小企業の視点でいえば、当社を例にあげると、2016年にデンマークのリラックスチェアの販売会社と提携して、北欧各国の介護市場に当社製チェアの販路を広げています。このように関西・大阪には中小企業でも独自の技術やサービス

を売りにして下請けから脱却し、独自のポジションを確立している例は少なくありません。大企業のほとんどが東京へ本社機能を移したことで、中小企業にとって新たな世界が広がります。このチャンスを活かして、世界市場に目を向けていくことも重要です。大阪には各国の領事館がたくさんありますから、それらと同友会がネットワークを密にし、中小企業のグローバルな経済発展を促すのも重要なミッションだと考えています。

戦略的インバウンドビジネス

崎元 コロナ禍でインバウンドが急減し、多くの業種・業界が苦境にあえいでいます。新型コロナウイルスが終息すれば繁華街にも賑わいが戻ってくると思いますが、インバウンド経済についてはどのように見ておられますか。

生駒 関西とりわけ大阪は、インバウンドに振り回されている一面があります。例えば、高級ブランド店の多い心斎橋はハイグレードなまちという印象がありましたが、医薬品や日用品を爆買いする外国人旅行者目当ての商売が急増してイメージが一変しました。インバウンドによる景気高揚とまちづくりをセットで考えるなら、例えばインテックス大阪周辺のような比較的人が少ないところに施設を作り、そうした買い物客を誘導する、そして同時に、心斎橋の高級感を世界に発信してまちのイメージを守ることでも大切でした。今後はインバウンドをもっと戦略的に活用しなくてはならないと思います。

また、どこからきた旅行者が何をどれだけ買ったかという情報は各店舗にしか残らず、全体像が把握できません。そこで一つのアイデアですが、外国人旅行者に対する消費税の免税制度を利用して、一旦お店で消費税を払ってもらい、関西国際空港から出国する際に出費内容を確認して一括して返金する仕組みを作れば、消費行動の情報が一つに集められます。そのデータは景気対策やまちづくりに活用できますね。関空をハブ空港と位置付けるならデジタルデータのハブ設計も考えることもできますが、単なる出入口のようになってしまっは、とてももったいないと思います。

中之島ロボットチャレンジ

崎元 御社で取り組まれている文化事業についてご紹介ください。

生駒 2007年、当社は茨城県つくば市が主催する「つくばチャレンジ」に参加しました。次世代ロボット産業の創出を目指すつくば市が、企業や大学、市民と協力し、市街地におけるロボットの自律走行技術の向上を目指した公開実験です。これがきっかけで、当社は2016年に「中之島ロボットチャレンジ」の開催を呼びかけました。現在、大阪の大学や企業など20チームが参加し、中之島や扇町公園(大阪市北区)、八幡屋公園(同港区)で自律移動型ロボットレースなどの公開実験を行い、市民の方々にご覧いただいています。2025年大阪・関西万博では最先端のロボット技術が披露されるでしょうし、これがマース(MaaS*)に繋がれば新たな物流イノベーションのきっかけづくりになるかもしれません。私は大阪をロボットのまちにしようと呼びかけているのではなく、こうした夢のある挑戦に市民が関心を寄せるムーブメントを作りたいのです。

MaaS(マース: Mobility as a Service) …鉄道やバスなど複数の公共交通手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済などを一括で行う次世代移動サービス。

崎元 生駒社長は大阪をニューヨークみたいなまちにしたいとおっしゃっています。具体的にはどういうことでしょうか。

生駒 文化を求める人たちが集まるまちです。ニューヨークに行くと、音楽や美術、ダンスなどさまざまなアーティストが各所でパフォーマンスを披露しています。文化の多様性がある大阪にもそうした素養があると思いますが、活動を披露する場が少ないですね。幸いなことに大阪中之島美術館ができましたし、ウメキタ2期開発によって緑豊かな都会のオアシスができると、まさにセントラル・パークのようなアーティストの集まる場づくりができます。関西・大阪21世紀協会には、そうした文化あふれるまちづくりの旗振り役としても期待しています。



中之島ロボットチャレンジの出場チームとロボット
(2021年10月24日/株)プロアシスト提供)

一人ひとりが盛り上げ役に

崎元 2025年大阪・関西万博への関わりについてお考えをお聞かせください。

生駒 万博は起業家や開発者のモチベーションを上げる絶好の機会であり、これを契機に日本の発展に貢献するイノベーションが生まれます。私は、そのための規制緩和を行い、万博の開催期間だけでも特許申請をスピーディーに処理していただけるよう、関西経済同友会を通して2025年日本国際博覧会協会にお願いしています。

私としては、当社が開発した耳栓型の脳波計の活用を考えています。社員やその家族がそれを着けて会場に入り、そこで体験した感動指数を世界に発信することで、一人ひとりが万博の盛り上げ役となるのです。また、万博会場と当社をオンラインで結び、当社内にバーチャルな万博会場を作って来社された方々に立ち寄っていただくのも面白い。これはどんな会社にもできることだと思います。実際の万博会場では、私たちの自律型移動ロボットも多くの人にご覧いただきたいですね。こんなことを考えるとワクワクします。

崎元 どうもありがとうございました。

生駒京子氏

京都市出身。大阪電気通信大学工学部経営工学科卒業。大手ソフトウェア会社勤務の後、専業主婦を経て1994年プロアシスト創業。経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」、内閣府「女性のチャレンジ賞 特別部門賞」など受賞。2021年5月、関西経済同友会代表幹事就任。

株式会社プロアシスト

本社: 大阪市中央区北浜東4番33号 北浜ネクスビル28階。
1994年4月25日設立、資本金5,000万円。組込みシステム開発、制御システム開発、基幹業務システム開発、WEB開発、AI開発、データ解析サービス、介護・医療機器製造販売、従業員数217名。
(2021年4月1日現在)



文化の中之島に新たな拠点 大阪中之島美術館オープン

NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

美術館や博物館、ホールなどが集まる“文化の中之島”に、今年2月、新たな拠点がオープンした。1983年に大阪市が構想を発表して39年、モディリアーニや佐伯祐三など、国内有数の近代・現代美術作品6,000点以上を所蔵する大阪中之島美術館だ。同館が目指しているのは、その豊富なコレクションを様々な切り口で組み合わせ、何度もリピートしたくなるような新しい美術館。館長の菅谷富夫氏は、「多くの作品をご覧いただくために、さまざまな仕掛けを考えている。そして展覧会はもとより、訪れること自体が楽しみとなるような色々な使い方をさせていただきたい。ここでの体験が一人ひとりの未来を変え、大阪の未来を変えていこう(1月28日・プレス内覧会にて)」と語る。

大きな作品も余裕で展示

大阪中之島美術館は、黒い直方体の箱が地面から浮き上がっているような外観をしている。地上5階建ての鉄骨・基礎免震構造で、延床面積は約1万8,000㎡。1～5階まで吹き抜けになっている。

1、2階は入場無料の通り抜け可能なエリアで、1階にはレストランやインテリアショップ、2階にはミュージアムショップなどがあり、展覧会の鑑賞目的でなくても気軽に立ち寄ることができる。

チケットカウンターは2階。展示室へはここから長いエスカレーターで開放的な吹き抜けをゆっくりと上り、4階や5階へ向かう。しばしその間、来館者はこれから作品と対面するワクワクした気分を味わうことだろう。4階(1,400㎡)には約60mの展示ケースが設置され、長大な日本画も鑑賞できるようになっている。そして、5階(1,700㎡)は6mの天井高を確保し、大規模な立体作品も間近で観ることができる。



4階展示室にて(2月1日内覧会にて)

世界もうらやむコレクション

同館が専門に扱うのは、19世紀後半から現代に至る国内外の美術とデザイン。大阪ゆかりの作家の作品も豊富で、実業家で美術コレクターの山本發次郎が所蔵した佐伯祐三(1898～1928)の代表作42点をはじめ、戦前の大阪画壇を代表する小出楯重、北野恒富、島成園や、戦後の前衛芸術運動を牽引した「具体美術協会」のリーダー・吉原治良らの作品を中心に、5,000点に及ぶ寄贈と購入作品を合わせて6,000点を超えるコレクションをもつ。

西洋近代美術では、アメデオ・モディリアーニ(1884～1920)やキスリング(1891～1953)などのエコール・ド・パリ(パリ派)のコレクションが充実。キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスムなど、20世紀前半にヨーロッパを中心に展開した前衛的作品も多い。

また、サントリーポスターコレクション(約18,000点)から寄託されたアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864～



佐伯祐三《郵便配達夫》1928年／4階展示室(2月1日内覧会にて)

1901)やアルフォンス・ミュシャ(1860~1939)をはじめ、国内外の優れたグラフィック作品も豊富。大阪出身のグラフィックデザイナー・早川良雄(1917~2009)ら、大阪と関わりの深い近代・現代デザイナーのポスターや家具などの作品も国内随一の所蔵を誇る。

つながることで発展

2階には隣接する国立国際美術館や芝生広場などの敷地とつながるよう、歩行者デッキが設置されている。こうした多方向に出入口を設けたパッサージュ(遊歩空間)は同館設計の基本思想で、中之島に集まる文化施設などへ気軽にアクセスできるようにすることで、まちの回遊性を高めることを狙いとしている。

また、パッサージュによる魅力的な「場づくり」によって、情

報や知識、発見、感動の循環と活用を促すことも目指している。例えば、将来の文化を担う子どもに向けて、専門機関と連携した教育プログラムの展開や、大阪を拠点に活動するアーティストの作品を発表するなど、多様な第三者との連携によって事業の発展を図ることを重視。そうしたつながりを原動力に、社会の一員として変化し続ける美術館として、中之島から「ひと・こと・もの」が歩みを共にすることを目指している。



ヤノバケンジ《SHIP'S CAT (Muse)》／芝生広場にて

主な展覧会スケジュール

開館記念展

みんなのまち 大阪の肖像

[第1期]「都市」への道標。 明治・大正・昭和戦前

4月9日(土)~7月3日(日)

[第2期]「祝祭」との共鳴。 昭和戦後・平成・令和

8月6日(土)~10月2日(日)

美術とデザインを両輪とする同館ならではの展覧会。過去1世紀半に大阪が見せた多彩な“肖像”を紹介し、大阪をめぐる時空の旅へと誘う。懐かしい大阪を感じ、知らない大阪を発見する機会となる。



①



②

開館記念特別展

モディリアーニ — 愛と創作に捧げた35年 —

4月9日(土)~7月18日(月・祝)

人物の内面を捉えた肖像画で知られるモディリアーニの作品約40点を集めた、日本では14年ぶりの回顧展。交流のあったピカソや藤田嗣治らエコール・ド・パリの作品も展示。



③

ロートレックとミュシャ

パリ時代の10年

10月15日(土)~2023年1月

9日(月・祝)

ロートレックとミュシャのパリ時代に焦点を当てた展覧会。モダンデザインの流れを示すロートレックの全ポスター作品31点を一挙公開。



④

特別展

佐伯祐三 — 自画像としての風景

2023年4月15日(土)~6月25日(日)

大阪出身で、30歳で夭逝した天才洋画家・佐伯祐三の作品を一堂に集めた、大阪では15年ぶりの本格的な回顧展。大阪・東京・パリの3つの街に焦点を当て、風景画を中心に佐伯芸術の本質と魅力に迫る。



⑤

- ① 小出楳重《街景》1925年／大阪中之島美術館蔵 [第1期出品]
- ② 早川良雄《第11回秋の秀彩会》1953年 大阪中之島美術館蔵 [第2期出品]
- ③ アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年／大阪中之島美術館蔵
- ④ アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》1891年 サントリーポスターコレクション／大阪中之島美術館寄託(2月1日内覧会にて)
- ⑤ 佐伯祐三《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》1927年／大阪中之島美術館蔵



大阪中之島美術館

大阪市北区中之島4-3-1 TEL.06-6479-0550

開館時間 10:00~17:00(展覧会場への入場は閉館30分前まで)

月曜休館(祝日の場合は翌平日)

観覧料 展覧会ごとに異なる

アクセス

電車・京阪中之島線渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分

・Osaka Metro四つ橋線肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

・JR大阪環状線福島駅／東西線新福島駅(2番出口)より徒歩約10分

・阪神福島駅より徒歩約10分

バス・大阪シティバス JR大阪駅前より、53号・75号系統で「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約2分

ホームページURL <https://nakka-art.jp>



苦境の経験をも芸に活かす

昨年7～9月にかけて、上方落語協会所属の若手噺家37人(2003～17年入門)による「第7回上方落語若手噺家グランプリ2021」(アーツサポート関西助成)*が開催され、桂小鯛さんが優勝、桂二葉さんが準優勝に輝いた。また、11月には二人揃ってNHK新人落語大賞の本選に出場し、二葉さんが大賞を受賞。2年におよぶコロナ禍で落語界が苦境にあるなか、それをも芸に活かす心意気で乗り越え、手にした栄冠だった。

*上方落語の伝統継承と若手噺家の育成を目的として、アート引越センター株式会社・寺田千代乃名誉会長の寄付をもとに、2015年から10年間(10回)開催予定。



どうしても獲りたかった

「グランプリを受賞して何より嬉しかったのは、師匠や師匠の奥さん、お兄さん(先輩)方、関係者の方々、親兄弟に喜んでもらったこと」という桂小鯛さん。上方落語若手噺家グランプリは若手が憧れる大きなタイトルだけに、どうしても獲りたかった。決勝戦の演目は、落語好きな夫婦の会話を描いた創作『落語夫婦』。20作ほど作った中の一つで、当初は審査員好みや決勝戦にふさわしいネタにしようかと色々考えたが、目の前のお客様に楽しんでもらうのが一番という思いで決めた。「グランプリにはこれまで5回出場し、決勝進出は3回目。そうした慣れもあって、今までで一番落ち着いてできました。師匠(桂塩鯛さん)は弟子に言葉をかけることが少ないんですが、このときばかりは『よう頑張ったなあ』と褒めてもらいました」と笑顔で語る。

入門してしばらくは社会人としても日が浅く、師匠から叱られてばかりだった。例えば師匠の奥さんの手料理をご馳走になっていると、「黙って食べるな。美味しいですねとか、どうやって作るんですかとか、何かいうことがあるやろ」と注意される。「普段から人を喜ばせる気持ちがないと落語はできないという教えです」と小鯛さん。とはいえ師匠の塩鯛さんは、小鯛さんがきつく叱られて凹んでいると、「俺もいまだにざこばさん(塩鯛さんの師匠の桂ざこばさん)に叱られるけどな」とフォローしてくれる優しさがあるという。

桂米朝一門に脈々と伝えられている教えに、「結局は人間性」というのがある。人への思いやりや優しさがないと舞台の上で言葉の端々にそれが表れるし、お客様も感じとる。小鯛さんは、今それを強く感じていると話す。

コロナ禍をマイナスにしない

数年前、小鯛さんは師匠から「ベンツを買え」といわれた。理由を聞くと「お前みたいな風采の男がベンツから出てきたらおもろいがな」と。最初は乗り気ではなかったが、買ったことを話題にしてもらったり、『ベンツ購入記念落語会』を開いてもらったりした。「師匠も若い頃にBMWを買って発奮材料にしたそうで、私もベンツが結構武器になりました」と笑う。

昨年の新型コロナ緊急事態宣言中は、全く仕事がなくなった。そこで、韓流ドラマや映画を観て新作のアイデアにしたり、SNSを始めたり、絵を描いたり、料理をしたりと、今までしなかったことを始めた。「リモート落語会に参加し



かつら こだい
桂 小鯛さん

1984年岡山県倉敷市出身。県立倉敷古城池高校卒業後、芸人を志す。2007年6月桂都丸(現・四代目桂塩鯛)に入門。同年11月桂とま都の芸名で北座染屋町寄席(京都市)にて初舞台。2010年小鯛(二代目)に改名。2014年第9回繁昌亭大賞輝き賞受賞。令和3年度NHK新人落語大賞の決勝にも進出。芸歴15年、米朝事務所所属。

て自宅からお客様に落語を配信しました。噺家は落語の稽古をしているだけで面白くなれるわけではありません。沈んだ経験も活かせると思うので、コロナ禍が全てマイナスだとは感じていません」と話す。

何事もコツコツとするのが好きな小鯛さんは、今後も噺家としてコツコツと精進していくことに変わりはないという。今後の目標を聞くと、「古典でも新作でも、お客様から『この噺は小鯛から聞くのが一番好き』といってもらえる演目を一つでも増やすこと」と、表情を引き締めた。

悔しい思い

古典落語はもともと男性が演じる前提で作られているため、女性がやると違和感があって笑えないことがある。桂二葉さんも先輩の女性噺家たちと同じく、「女に落語はできない」「高座返し(座布団や名ピラを返す仕事)だけやっていけばいい」などといわれ続けて悔しい思いをした。それを発奮材料にしてきただけに、受賞の喜びもひとしおだ。とりわけ50年の歴史があるNHK新人落語大賞を女性初で受賞したことは嬉しく、記者から感想を聞かれて「今までやいやい言うてきたジジイども見たか!っていう気持ち」と、つい日頃の鬱憤が口をついて出た。

学生時代から熱心に寄席通いを続け、将来は噺家になるつもりでいた。女性が落語をするのは難しいとわかっていたが、自分の言葉で自然体で喋る師匠(桂米二さん)に魅力を感じ、門を叩いた。実際、桂米二さんは、「女性に落語は難しいなあ」と思いながらも、どうしたらよくなるか一緒に考えて稽古をつけてくれたそうだ。「すっごく覚えの悪い私を見捨てず、とことん丁寧に教えてくださいました。そのおかげで今日の私があると本当に感謝しています。落語以外ではめちゃくちゃ叱られましたけどね」という。入門11年目。男性が自分の個性を活かして演じるのと同じように、女性として自分の個性を活かして受賞できたことが嬉しく、「やっと男性と同じ位置に立てた喜びがある」と微笑む。

度胸試し

二葉さんは昨年、コロナ禍で3か月ぐらい人前で落語ができず、お客様の前に出るのが怖くなった。そこで度胸試しにと、「天満橋の滝川公園で公開稽古をします」とTwitterで発信したら、40~50人ほど集まった。「久しぶりに人前で落語をしたので、じんましんが出ました。落語をするのがこんなにストレスやったとは…」と明るく笑う。

自身も新型コロナに感染し、昨夏10日間ほど自宅療養をした。「買ってきたものの包装は必ず除菌シートで拭くし、ラジオ局ではアクリル板があってもマスクをするし、すごく気をつけていたのに」と悔しがる。今まで命に関わるような大病をしたことがない二葉さん。「不謹慎な言い方かもしれませんが、こんな苦しい経験をしたことで、良い噺家に一歩近づくんやないかと病の床で思っていました」と振り返る。

小鯛さんがベントを購入した話を聞いて、「私も高い買い物をして、『がんばれよ』って自分の尻を叩くのが好き」という。NHK新人落語大賞の出場前に賞金額と同じ50万円分の着物などを買い、絶対に大賞を獲るぞと自分にいい聞

かせたこともあった。今後の目標は、「お! 繁昌亭に二葉出てるやん! 観にいこ!」となってもらえる噺家になること。昨年9月に初の独演会(ABCホール/大阪市)をした二葉さんは、今回の受賞をバネに全国で独演会ができればと夢を膨らませる。「お兄さん(小鯛さん)みたいに新作を作れないので、当分は古典でいきます。古典落語の登場人物は、どんな人でもその人なりに楽しく生きていて、困っていたらお互い助け合う。そんな優しい世界観が好き」という。

コロナ禍を経験し、さらに高みを目指す二人の言葉に、噺家としての強い情熱を感じた。

2021年12月24日/天満天神繁昌亭にて
(ライター 三上祥弘)



かつら によ 桂 二葉さん

1986年大阪市出身。京都橋大学文学部卒業後、スーパーマーケット社員を経て2011年3月桂米二に入門。同年9月梅田太融寺にて初舞台。令和3年度NHK新人落語大賞では出場者107名の中から大賞を受賞し、上方落語若手噺家グランプリと共に大会史上初の女性受賞者となった。NHK新人落語大賞のネタは『天狗さし』。トレードマークのマッシュルームヘアーは自分でカットする。芸歴11年、米朝事務所所属。

世界各国で助成が活かされています

過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

<第2回>

タンザニア連合共和国／ザンジバル武道館



日本の柔道をアフリカに広げるため、ザンジバル柔道連盟からの申請で2001年度に500万円の助成を行いました。以下、同連盟名誉会長の島岡強氏より、現在の施設の状況をご報告いただきました。

青空道場での10年を経て、天候の影響を受けない屋根付き道場での柔道発展を目指して2002年4月に建設したザンジバル武道館は、ザンジバル柔道連盟のもとで約20年にわたって、柔道をメインとした武道全般の活動や文化ホールとして活用されています。



ザンジバル武道館正面



万博記念基金助成のプレート

青空道場時代は、練習も試合も天候に大きく左右されていましたが、建設後は、天候に関わらず練習ができるようになり、国際基準を満たす試合場が2面取

れる広さになったので、国内大会だけでなく、国際大会も開くことができるようになりました。

選手たちの力量も上がり、アフリカ大会や世界柔道選手権大会に出場するなど国際大会でも活躍できる選手も出てきました。このような選手の活躍が国内で認められ、柔道がザンジバルの国技の1つに認定されました(国技は、サッカー、陸上、柔道です。タンザニアは、タンガニーカ本土とザンジバルとで成り立つ連合共和国で、ザンジバルには政府があり国旗や国歌もあります)。



第13回東アフリカ柔道大会(2021年3月)

ザンジバル武道館へは、いろいろな国の人が柔道をしに来たり、見学に来たりしています。2014年7月には秋篠宮ご夫妻がご訪問くださり、ザンジバルの柔道家たちによる投げの形と記念試合をご覧いただき、その折には日本の柔道が遠い国で根付いていることをお喜びくださいました。

また、ザンジバル武道館は、柔道だけではなく、空手、合気道にも使用され、武道全般の拠点にもなっています。特に合気道は、日本から師範が来てセミナーを開催するなど盛んです。



ヤングスターズ子ども柔道大会開会式(2021年11月)

ザンジバル武道館にはステージがあるので、音楽コンサートや、幼稚園、学校などの式典や観劇会、結婚式なども時々開かれており、室内ホールが少ないザンジバルで文化の拠点としても貴重な役割をはたしています。

このように、ザンジバル武道館は、柔道場、武道全般、そして文化ホールとしてザンジバルに根付いた建物になっています。完成以来20年になりますが、当連盟で適宜メンテナンスをして今もきれいに保たれており、これからもみんなで大切にしていきます。

● 助成先の事業紹介

2020年度および2021年度の助成事業の中より、事業者から寄せられた報告をご紹介します。

▶2020年度◀

第8回アジア・パシフィック少数多体系物理に関する国際会議

事業者：第8回アジア・パシフィック少数多体系物理に関する国際会議組織委員会

交付確定額：435,000円

実施期間：2021年3月1日～5日

実施場所：金沢市文化ホール(石川県)およびオンライン

少数粒子からなる極小世界の物理学に関する国際会議を、金沢市とオンラインのハイブリッドにより開催しました。コロナ禍のタイミングでしたが、会議日程の変更とハイブリッド方式の決定を迅速にすすめ、準備を念入りに行い、滞りなく活発な会議を開催することができました。オンライン参加を受け入れたことで、当初見込みを大幅に上回る26か国295名(うち国外136名)の参加者が得られ、特にアジア地域から多くの参加があり、若手研究者の発表や議論を通して、研究の刺激や意識の向上を図ることができました。ハイブリッド開催のため音響・通信機材の準備が重要でしたが、助成金を会場設営にあてることができ、会議の成功につながりました。また、旅費や滞在費の補助が不要となったことで会議登録料を無料とすることができ、多くの参加者を集めました。国際諮問委員会からの会議への評価も芳しく、次回ベトナム開催へうまく引き継ぐことができました。



実施風景



授賞式(若手研究者の表彰)

▶2021年度◀

新作能「長崎の聖母」 「ヤコブの井戸」

事業者：公益社団法人 鑊てっせんかい仙会

交付確定額：2,000,000円

実施期間：2021年8月4日～8日

実施場所：杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」1(東京都)

日本とオーストリア両国で約3年かけて共同制作し、2019年9月にウィーン、パリ、ワルシャワで世界初演した新作能『ヤコブの井戸』(作:ディートハルト・レオポルド)の日本初演と「原爆をテーマにした能を」という長崎市民の求めに応じて創作され、海外でも上演を重ねている『長崎の聖母』(作:多田富雄)の二本立て公演を行うと共に、インターネットライブ配信を実施しました。コロナ禍の影響により客席数を半分に制限しましたが、連日ほぼ満員の盛況で、入場者延べ721人、インターネットライブ配信で128人が観覧しました。

客席数を半減させたため大きな減収となりましたが、万博記念基金などの各種助成金によって各方面の経費が賄え、また、意図する表現を金銭的な理由で制限されることが少なくなり、質の高い公演を維持することができました。



『ヤコブの井戸』(撮影:吉越研)



『長崎の聖母』(撮影:宮内勝)

2021年度奨学金給付事業

日本万国博覧会記念基金では、2021年度より「日本の伝統文化を研究する外国人留学生(大学院修士課程)を対象にした奨学金給付事業」を行っています。事業開始より1年が経ち、初年度奨学生のうち2名の奨学生が修士課程を修了しますので、その研究発表を掲載します。

日本万国博覧会
記念基金



京都市立芸術大学大学院美術研究科
工芸専攻(陶磁器)2回生
鄭天雨(テイテンウ)(中国)

「神性」への思いとしての美を探究

中国・浙江省杭州で生まれた私は、2018年に中国美術学院の陶磁器専攻を卒業後、留学生として渡日した。今は京都市立芸術大学陶磁器専攻の大学院2年生である。

中国は焼き物大国だが、なぜ日本へ陶磁器を学びにきたかという、日本の美意識や自然観に惹かれたからだ。日本に来たばかりのとき、黒川雅之の『八つの日本の美意識』という本を読んで、すごく影響を受けた。あれから、いつもそういう意識を持ちつつ、周りを見たり、感じたりしている。そして、日本には、八百万の神々という言葉があり、それは自然のもの全てに神様が宿っているという考え方である。自然を拝み共に生きて、全てのものに感謝の気持ちを持つことは大切だと思う。そういう観念は自分の作品にも語らせている。また、前衛陶芸の走泥社や現在活躍している日本の陶芸家の方々に憧れているので、ぜひ中国で陶芸を学んでから日本に留学しようと決めていた。

神様が暮らす世界は天上であったり、高い山の上であったり、私たちの世界から遠く離れた場所とされることが多いが、人類の祖先は、石や岩は精霊や神の主な宿り場所であり、この世界に出入りをする「門」だと考えていた。いわゆる岩石崇拜である。その考え方は私の潜在意識にもありそうだ。自然物に対して、人類の祖先と同じような感覚を持っているのは不思議だと思う。それは人類が共有する生命記憶だろう。

自然、命、人間からインスピレーションを得て、東洋的美意識に基づき、そういうスピリットが宿るような神秘的で静寂な世界を表現することで、原始的な宗教感覚を感じさせ、人々の生命記憶を喚起しようと思う。

神様が宿りそうな石、光の舞台などを作ったり、「寄生」や「共生」の関係をモチーフにして、宿主への影



「秘境」2020 陶土・鉄粉



「ひかりに会う」2021 陶土・釉薬・金属

奨学生選考の経緯

- 2021年3月 公募を開始
- 5月 大学での学内選考を経て、4大学から5名の申請を受付
- 6月 外部審査委員による審査
- 7月 5名の外国人留学生へ奨学金の給付を決定

響、または一体化している「親密」な関係を意識しつつ、土、釉薬、金属などの異なる素材の関係性の中で制作してみたりした。

2020年に、音楽の演奏場を作るため、山でみんなと穴を掘った。雑草取りのとき、遠くの地下まで伸びていて、一人の力で抜こうとしても全然動かない5mの蔓に苦戦した。本当に力強い自然物で、「大地の母から離れたくないのかなあ」と思いつつ、その蔓とそこにある土でへその緒と子宮の関係を表現した。その表面に、そこにある植物で作られた草木灰の釉薬を掛けて『母胎』と名づけた。



「母胎」2020 山の土・山の草木灰・葛の蔓

『母胎』を制作することで、人間は「植物性」を持っていることに気づいた。

我々は、夜の睡眠においては植物のごとく意志に支配されずに宇宙のリズムを体感している。また、我々は植物のごとく光を感じる。ただ、今の私たちは人工的な光を手に入れたことで、植物性が退化してきた。

もともと人間の在り方は、流転している昼夜、四季に生を委ねる植物に似ているのではあるまいか。植物のような美しい人間に対して、憧れを抱きながら、「植物」と「人間」の間という仮想の生命形態を具象化する試みをした。「木」と「人」の結合として『杵』というタイトルをつけた。



「杵」2020 陶土・童仙房・シャモット・釉薬・金属

人々が私の作品を見て、自然と自分が繋がる感覚を取り戻すことで、命というもの、そして自分自身をよりよく理解できれば幸いだと思う。

作品の奥行きを深めていくために、これからも自分の内面を発掘して、「神性」というものへの理解を深めつつ、「神性」への思いとしての美を感じさせる作品を制作したい。また、新しい技法や材料の研究を行い、作品と空間の関係性や作品のあり方なども探究し続けたいと思う。

将来は自分のスタジオを作り、作品を作り続け、自分の世界観と焼き物の魅力を見せたいと思う。日本で学んだ技術や知識を中国で学んだものと融合させ、活用させ、自分なりの作品を生み出そうと思う。オリエンタルな、文化的な、伝統的な美意識を持ちつつ、今まで感得した人間、自然、宇宙のリズムについての世界観を表現したい。そして、

陶磁器を作ることだけではなく、画家や科学者など、他の分野の方々とコラボレーションして、自分の幅を広げれば良いと考えている。

日本万国博覧会記念基金のお陰で、日本各地の美術館を見学したり、様々な展示に参加したり、陶芸の森で2か月滞在制作したりすることができた。私にとっては、全てこれから必ず活かせる経験だと思う。



無題 2021 陶土・シャモット・釉薬



東京藝術大学大学院映像研究科
メディア映像専攻2回生
Joyce Lam
(ジョイス・ラム) (カナダ)

「家族」というシステムを考える

いつの間にか、日本にいる時間が幼少期に家族で移住したカナダと、大学時代を過ごしたイギリスよりも長くなりました。植民地時代の香港に生まれて、さまざまな土地を転々としてきた自分のアイデンティティは常に不安定なものだと感じますが、自分の所属する場所(home)を探っていくなかで、社会を構成する最小単位の「家族」が一番身近にある異物の存在だと気づきました。一方で、多くの国では法的に定める「家族」の関係性は結婚でしか獲得できません。社会学で「家は近代の発明だ」と論じられるように、私たちが持っている理想の家族像は各国の法律をはじめ、地域的・文化的制約などによって作り上げられ、制限されています。

修了制作の「家族に関する考察のトリロジー」は、家系図を用いてさまざまな「家族の定義」を考察するプロジェクトです。その実践を通して、複雑な家族関係を図式化し、対象化していきます。2月に行われた修了制作展で上演した45分のレクチャーパフォーマンスは、家族研究をはじめ、文化人類学、日本の観光の歴史など、さまざまな分野と視点を横断したりサーチから「月」「木」「火」のモチーフを抽出して三部作として構成しています。日本語、英語、広東語、中国語で上演／上映しますが、言語が混沌としている台本を読み上げる身体を通して、不確実なアイデンティティを表現しています。



「家族に関する考察のトリロジー」上演の様子

私の実際の家族写真を使用し、家系図の書き方の説明からレクチャーパフォーマンスの「第一部：月編」が始まります。選択できる「夫婦」の単位で始まる家族が「親子」の関係より優先されるNASA(アメリカ航空宇宙局)の「家族の定義」によると、結婚していない自分には「直系家族」がいません。しかし、

宇宙や月では国籍、人種、性別といった、人間を区別するカテゴリーは無関係なはず。月にいる「日本の外国人」というナンセンスに疑問を投げかけます。



家系図の書き方の説明に使用したスライド「第一部：月編」より

続いて、シングルチャンネルの映像作品として上映する「第二部：木編」は、宮崎県の高千穂が舞台となっている日本神話に登場する神々の系図(family tree)を取り上げます。また、一般人と結婚した結果、降嫁した皇室女子にとっての「幸せ」を通して、「結婚＝幸せ」という固定概念について思索します。「不要不急」の旅に出る私の旅行記録と高千穂神社の宮司へのインタビュー、皇室の結婚と新婚旅行についての報道で構成したメタドキュメンタリー(フィクションの要素も織り交ぜられたドキュメンタリー)です。

最後の「第三部：火編」では、家族とともに暮らす家(ヤ)という建築空間の中で、男女の活動空間とそれぞれ担っている役割を考えます。家(イヘ)の「へ」は「ヘツツイ」を指し、つまり家の中心には「火」があると柳田國男が論じているように、共食から獲得する家族関係の可能性を提示します。



宮崎市内で植えられているフェニックス
「第二部：木編」より

修了制作に取り組んだこの一年間、日本万国博覧会記念基金の奨学生として採用していただいたおかげで集中してリサーチしたり文献を読んだり、全力で制作に打ち込むことができました。映像だけではなく新しい作品形態にチャレンジし、これまで勤めていた編集者としてのスキルも活かせることは大きな収穫でした。



天照大神の岩戸隠れの神話に登場した天岩戸
「第二部：木編」より

また、TOKAS-Emerging 2022という公募プログラムに入选し、修了後の4月2日(土)～5月8日(日)に、トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)本郷にて初めての個展を開くことになりました。この展示では、修了制作でまとめたものを映像インスタレーションとして再構成し、そしてレクチャーパフォーマンスの台本をまとめた小冊子も制作したいと考えています。このように、今後も人生においてさまざまなことを自由に選択できるように、「家族」の研究を深めながら制作を続けたいと考えています。

みなさまのご寄付が支援となって、コロナ禍のアーティストたちに届いています。

2021年度助成活動報告

一般助成
舞台芸術

そね とも 曾根 知さん コンテンポラリーダンス公演「No Man's Land」

コンテンポラリーダンサーの曾根知さんのダンス公演「No Man's Land」が、10月3日にロームシアター京都ノースホールで開催されました。

もともとクラシックバレエのダンサーであった曾根さんは、2008年にイスラエルに渡ってコンテンポラリーダンスの活動を本格化させ、現在、京都とイスラエルを拠点として精力的に活動しています。

今回の公演では3作品が上演されました。「Written in the dressing room」はコロナ禍の中で生まれた作品で、これをソロで踊った曾根さんは、何かに翻弄されるように、しなだれ、うつぶし、飛び跳ねる、といった身体の動きを見せます。曾根さんによれば、この作品は、ダンサーへ向けられる期待の表現であると同時に、幸せに生きる方法の提

案でもあり、「私は他人のためではなく、踊りたいから踊る」と述べる曾根さんの踊りから、束縛からの自由を求める強い想いのようなものが読み取れました。この作品自体がコロナ禍におけるアーティストのステートメントのように感じられた公演でした。



公演風景 ロームシアター京都(京都市)

岩井コスモ証券
ASK支援寄金助成 美術

たなか しゅうすけ 田中 秀介さん 個展「馴れ初め丁場」

現代美術家の田中秀介さんの個展「馴れ初め丁場」が、京都府南丹市の八木町にあるかつての酒蔵・旧八木酒造跡地にできた現代アートのためのスペース、オーエヤマ・アートサイトで10月9日～18日にかけて開催されました。日本酒を仕込むための道具がそのまま残された空間のいたるところに、田中さんの絵画20点が展示されました。

田中さんは、和歌山県生まれの35歳で、現代の日常を独自の感性でとらえた絵画で注目されています。一昨年は生まれ故郷にある和歌山県立美術館で個展を開催しました。

展示の構成を考えると、酒蔵の趣をできるだけ活かし、来訪者が建物から懐かしさや美しさを感じ取りながら、作品が描く非日常的な風景にゆるやかに触れていくような展示を試みたそうです。会場には、新たに制作された輪郭が不定形のいわゆるシェイプドキャンバスの作品と、

会場の雰囲気に合わせて過去のものから選んだ作品が展示されており、あるものは風景に溶け込み、またあるものは際立って見えるような、メリハリが感じられました。

古い日本映画を見ているような昭和初期の空気が漂う空間において、古い建物と作品が響き合い、絵画に込められたアートの様相がより際立って見える展示会でした。



展示風景 オーエヤマ・アートサイト(南丹市)

一般助成
美術

こいで まよ 小出 麻代さん 個展「月に、日に」

現代美術アーティストの小出さんの個展「月に、日に」が、10月9日～10月31日にかけて京都のギャラリーVOU/棒で開催されました。小出さんは、1983年大阪市生まれで、場所そのものや、そこに関わりを持つ人とのやり取りを起点に、「記憶」や「時間」にまつわるインスタレーション作品などを手掛けています。

今回の個展「月に、日に」は、明治時代に発行された「古歴」とのめぐり逢いから、暦にかかわる月と日、光と影、そして長い時間を越えて続く人の営みといったさまざまな事物からイメージを生み出し、それらを空間全体をつかったインスタレーション作品として構成しました。メインの空間には、女性たちが黙々と手を動かしながら制作するキルティングに着想を得た大きな紙によるコラージュ作品が天井から吊り下げられ、そこに手作業をする女性のシルエット

が映し出されています。その手前には、あたかも循環しながら着実に時間を前に進める「暦」の存在を思わせるかのように、乳白色のガラスボールの底に置かれた古暦を、天井から吊り下げられた石が振り子のようにたどっていくイメージが示されています。観念的な展示でありながらも、白く大きな紙のコラージュにあしらわれたパターンの美しさや、石がガラスにあたる軽やかな音が心地良く感じられる展示会でした。



展示風景 ギャラリーVOU/棒(京都市)

岩井コスモ証券
ASK支援寄金助成 音楽

いぬい まさかず 乾将万さん「バレエで音楽を描く— 継往開来」

ピアニストの乾将万さんが2年越しで企画したコンサート「バレエで音楽を描く— 継往開来」が、11月3日に兵庫県立芸術文化センター阪急中ホールで開催されました。

乾さんは、茨木市生まれの31歳で、ハンガリー政府給付奨学生としてハンガリー国立リスト音楽院に学び、現在は茨木市を拠点に、自身の演奏活動をはじめ様々な演奏会の企画をするなど幅広く活躍しています。

このコンサートは、単に音楽に合わせてバレエを踊るのではなく、音楽が描き出す「何か」をダンサーがとらえて身体で表現することを試みる取り組みとして行われました。前半の『オンディーヌ』は、本公演のために書き下ろされた作品で、美しい水の精霊の物語を音楽と踊りが描き出します。一方、後半のストラヴィンスキーの『春の祭典』は、終始、前衛的で抽象的なイメージが前面に表現された作品で、随所に、身体的な動きによる音楽の可視化を思わせる

場面が見て取れました。

リハーサルは、2019年12月から始まり、コロナで本番が延期されたこともあって、重ねたリハーサルは100回近くに及んだそうです。タイトルにある「継往開来」とは、先人の文化を継承し未来を開くという力強い意味が込められた言葉で、乾さんをはじめ関わった若い方々の今後の活躍が大いに期待できる舞台でした。



公演風景 兵庫県立芸術文化センター(西宮市)

岩井コスモ証券
ASK支援寄金助成 音楽

ほりえ まきお 堀江 牧生さん「デビューCD制作・収録記念演奏会 第1回～第3回」

チェロ奏者の堀江牧生さんは、1990年吹田市生まれの32歳で、モスクワ音楽院に学び、同音楽院を首席で卒業後、ロシア国立ボリショイ劇場管弦楽団で活躍した実力の持ち主です。今回初めてCDを制作することとなり、モスクワ音楽院時代の仲間である3人のピアニストを招いて収録が行われ、その成果を3回にわたりグランフロント大阪の島村楽器の演奏会場にて演奏会形式で披露しました。

6月29日に行われた第1回には、第77回日本音楽コンクールで優勝した入江一雄さんが登場。ベートーヴェンのチェロ・ソナタ第5番を中心としたプログラムを演奏しました。9月20日の第2回には、沼沢淑音さんを招いてグリーグのチェロ・ソナタを中心としたプログラムを演奏。沼沢さんは桐朋学園を経て、モスクワ音楽院を卒業後、国際的に活躍されています。11月15日の第3回は、第76回日本

音楽コンクール優勝者の佐藤彦大さんひろおを招いて行われ、プーランクのチェロ・ソナタなどを披露しました。

いずれの回も小規模ながら国内最高レベルとも言うべき圧倒的な水準の演奏を聴かせるものとなり、彼ら若い演奏家たちのさらなる飛躍を大いに感じさせられました。



演奏会風景 島村楽器ピアノルーム(大阪市)

岩井コスモ証券
ASK支援寄金助成 美術

つみ たくや 堤拓也さん「余の光／Light of My World」展

若手注目のキュレーター・堤拓也さんが企画した展覧会「余の光／Light of My World」が、福知山駅前のかつてパチンコ店だったビルにて10月8日～11月7日の会期で開催され、19名のアーティストによる絵画や写真、映像などの作品が展示されました。

タイトルにある「余の光」は、聖書の一節からとられたもので、アーティストとは、自らの行いで世を光で照らし出す存在であるというイメージをもとに、人はなぜ芸術を必要とするのかという問いを私たちに投げかけます。

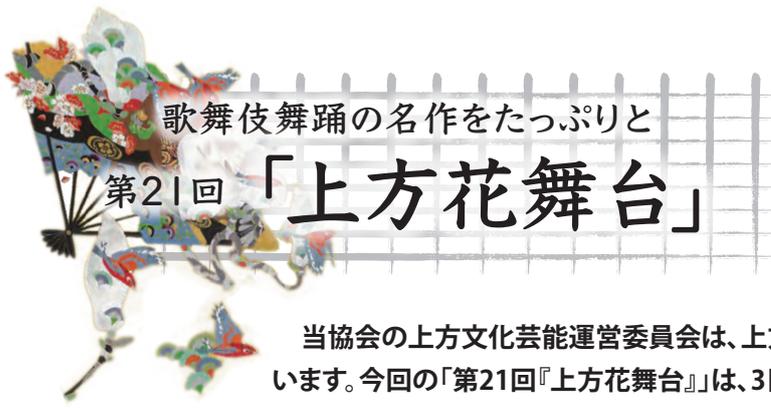
貧しい人々の手によって解体される巨大タンカーの姿をとらえた映像作品から、廃船となったタンカーの物悲しい独白の声が空間に響き、無人のパチンコ台の列に設えられた移動式祭壇の作品が、祈りの主の不在を示すかのように暗闇に浮かび上がります。

とりあげられたアーティストたちは、現代美術ではなじ

みのない国の出身者や、退職後に画家に転向した方、年齢が若いために知られていない方などで、人々の目に触れる機会が限られてきた方々の作品が多く含まれていました。こうした方たちが、アーティストとしての使命を寡黙に果たしていく姿を通して、あらためて芸術の持つ意味について考える機会となりました。



展覧会風景 旧銀鈴ビル(福知山市)



歌舞伎舞踊の名作をたっぷりと

第21回

「上方花舞台」

2021年9月3日・4日・5日／国立文楽劇場

企画：阪口 純久

構成・演出：藤間 勘十郎

撮影：©越田 悟全

当協会の上方面文化芸能運営委員会は、上方面文化芸能の伝承と振興に力を注いでいます。今回の「第21回『上方花舞台』」は、3日間で3回公演、コロナ禍で人数を制限しながら約1,000人の皆様に歌舞伎と日本舞踊の競演をお楽しみいただきました。

華やかな菊の精

きく

「菊」

一人の少女の成長を様々な菊の花に託して描き、禿(幼女)、町娘、御守殿、田舎娘を踊り分ける『娘道成寺』の菊版といった作品です。初演は昭和6(1931)年(初世吾妻徳穂)で、昭和34(1959)年には尾上梅幸が新橋演舞場にて、六世藤間勘十郎の振付で自身初の上演を行いました。その後、平成10(1998)年に新たに三世藤間勘祖の振付により再演。今回はこの時の構成をもとに、一人の娘の成長ではなく、菊の精の華やかな姿を描く構成で中村梅枝が演じ、短い曲の中にも秋を感じる華やかな舞台となりました。

花の精が酔う

ふじ むすめ

「藤娘」

大津の絵師 浮世又平の描いた人物が絵絹を抜け出し踊る趣向の作品から、昭和12(1937)年に六代目尾上菊五郎がその中の人物「藤娘」を独立させたもの。役名も「藤娘」から「藤の精」と改め、従来曲に岡鬼太郎作詞の「藤音頭」を加えました。六代目菊五郎の体を娘のように小さく見せる美術構成や六世藤間勘十郎の振り付けが好評で、今ではこれが演出の主流です。

藤に酒を与えると色良い花が育つという言い伝えと、娘が初めて酒を飲んで酔う姿を重ねた「藤娘」は、音羽屋のお家芸。「花の精が酔う」という口伝が残されている名作舞踊を、尾上菊之助が好演しました。



中村梅枝



尾上菊之助

一人5役・華麗な変化舞踊

ろっかせんすがたのいろどり

「六歌仙容彩」

平安時代の和歌の名人6人を徹底的に洒落のめした歌舞伎変化舞踊の名作。日本美人の小野小町をめくり5人の男性が皆ふられるという物語で、この5役を一人の演者が踊り分けました。はじめに登場するのは、元良峯少将宗貞で小町の恋人だった僧正遍照。宗家藤間流の振付により、小町の僧正遍照への一番強い想いが表現されました。そして官女達を相手に艶やかな吉原情緒を魅せた文屋康秀、平安貴族の色模様を描いた業平、茶汲み女を相手に色模様からチョコクレ(門付芸)まで踊る喜撰法師へと続き、最後は天下転覆を企む大伴黒主とそれを見破る小町との争いが、能「草紙洗小町」の趣向で描かれました。尾上菊之助と中村梅枝による初の通しで、顔見世舞踊の醍醐味溢れる舞台となりました。



尾上菊之助(大伴黒主)

日本の文化に親しむ

「町人文化を味わう」

2021年10月21日／

三輪明神 大神神社・三輪山会館能楽堂

コロナ禍によって度々延期していた大神神社(奈良県桜井市)での能の鑑賞を、ようやく実施することができました。

鑑賞に先立ち、参加者全員で大神神社に参拝したあと、大神神社の第二期大造営事業によって竣工した三輪山会館の中にある能楽堂へ移動。ここの能舞台は、大阪南地の料亭大和屋にあったものを移築したもので、松の鏡板は人間国宝の前田青邨(1885～1977年)によるものです。この能楽堂で大槻文藏の能「羽衣」と茂山家による狂言「千鳥」を鑑賞しました。

『羽衣』は各地に伝わる羽衣伝説がモチーフ。三保の松原に住む漁師が天女の羽衣を見つけ持ち帰ろうとしたところ、それを返してもらうために天女が舞を舞い、富士の空へと姿を消していく物語です。人間国宝の大槻文藏がその美しさと儚さを表現し、参加者を惹きつけました。『千鳥』は、主人から酒を買ってくるよう命じられた太郎冠者が、お金がないため酒屋のすきをついて樽を持ち帰ろうとする話。酒屋と太郎冠者の滑稽な駆け引きを茂山七五三と茂山逸平が演じました。



『羽衣』大槻文藏



『千鳥』茂山逸平(左)、茂山七五三(右)

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、いくつかの事業についてご報告します。

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021 (2021年11月23日／国立民族学博物館)

主催：公益財団法人千里文化財団

人類・いのち・万博 — 1970から2025に向けて

2025年大阪・関西万博の開催意義などについて、吉田憲司氏(国立民族学博物館長)、西尾章治郎氏(大阪大学総長)、ウスビ・サコ氏(京都精華大学学長)、山極壽一氏(総合地球環境学研究所所長)、井上章一氏(国際日本文化研究センター所長)が提言を行いました。この中で、①参加国との協働・共創作業の場 ②大学間のグローバルな共創 ③ユーロセントリズムではない共創のあり方 ④ヒト中心ではない「いのち」と「いのち」のつながりなど、ともすれば開催国や先進国を中心に企画・推進されがちな国際的博覧会に警鐘が鳴らされました。また、オリンピックと比べて万博の訴求力が弱くなっているとも指摘されました。

パネルディスカッションでも各氏からさまざまなアイデアが出されました。キーフレーズの一つは「壁を越える」。①京阪神の壁

②バーチャルとリアルの壁 ③オリンピックと万博の壁 ④人間と人間の壁 ⑤言語の壁 ⑥国家の枠組みという壁などを越える必要性が述べられました。最後はファシリテーターの吉田氏がやや冗談まじりに、「京阪神に奈良を加えてその壁を壊さないと、国の壁とはいついられない」と語り、締めくくられました。本シンポジウムの詳細は、2022年4月に千里文化財団が発行予定の『季刊民族学』180号に掲載されます。



パネルディスカッションの様子

令和3(2021)年度 関西元気文化圏賞 贈呈式 (1月24日／リーガロイヤルホテル大阪)

主催：関西元気文化圏推進協議会

オリックス・バファローズに大賞を贈呈 文楽夢想実行委員会らに特別賞

文化・芸術・スポーツなどの分野で活躍し、関西から日本を元気に明るくした人や団体へ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる関西元気文化圏賞。第19回となる今回は、昨年、25年ぶりにプロ野球パシフィック・リーグを制覇し、関西で16年ぶり、球団統合後初のリーグ優勝を遂げたオリックス・バファローズに大賞が贈られました。球団社長オーナー代行の湊通夫氏は、「私たちは阪急ブレーブス、大阪近鉄バファローズ、オリックス・ブルーウェーブの3つの魂が入った球団。昨年の優勝で、ファンの方々や選手から『やっと一つになれた』というメッセージが届き、非常にうれしく思った。この受賞で、私たちこそ元気と勇気をいただいた」と喜びを語りました。

また、昨年8月に自主公演『人形浄瑠璃 文楽夢想継承伝』を行った文楽夢想実行委員会などに特別賞が贈られました。同実行委員会は、コロナ禍で若手の自主公演が激減し芸の継承が難しくなることを憂いた人形遣いの吉田玉翔さんが、若手技芸員や師匠たちに呼びかけてスタート。公演中の吉田玉翔さんに代わって登壇した鶴澤友之助さん(文楽三味線)は、「アーツサポート関西やクラウドファンディングを通じて寄付を集め、無事公演を終えることができた。今後も日本そして世界に愛される文楽であるよう一層努力していきたい」と笑顔を見せました。

贈呈式は文化庁芸術祭賞贈呈式と併せて行われ、冒頭、

都倉俊一文化庁長官は、「2年におよぶコロナ禍で塗炭の苦境にありながら、人々の心に勇気と潤いを与える活動を実践してこられた」と文化芸術にかかわる人々を称賛。関西元気文化圏推進協議会の松本正義会長は、「これからも皆さんのパワーで関西から日本の人々を元気づけていただきたい」と呼びかけました。各賞の受賞者は次の通り。

大賞：オリックス・バファローズ、特別賞：文楽夢想実行委員会、塚本康浩(京都府立大学学長・獣医学博士)、東京2020オリンピック・パラリンピック特別賞：関西出身の東京オリンピック・パラリンピックメダリスト31名、ニューパワー賞：反田恭平(ピアニスト)とJapan National Orchestra株式会社、金子扶生(バレエダンサー)(敬称略)



受賞者と主催者

堂島薬師堂節分お水汲み祭り(2月3日／堂島薬師堂・大阪市北区)

主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

新型コロナ退散や商売繁盛を祈願

関西経済同友会の提言を受け、大阪・キタの活性化と水都大阪の再生をめざして始まり今年で19回目を迎えました。今年も新型コロナウイルス感染症対策として、堂島薬師堂での節分法要やお水汲みなどに限定して実施。読経が響く中、お堂の周りでは手を合わせる人の姿も見られました。



堂島薬師堂にて薬師寺僧侶から竹筒にお香水(こうずい)を受ける

制作番組のご案内 (共同制作:株式会社オプテージ)

村瀬先生の『ぶらり関西歴史旅』

江戸時代の地図を手に、大阪の昔と今を比べて学ぶ街歩き番組『ぶらり関西歴史旅』。大阪・なんば編では、通称「ミナミ」こと難波・心齋橋界隈を訪ねます。「なにわの地理博士」こと大手予備校・東進ハイスクールの人気講師・村瀬哲史さんの案内で、フリーアナウンサーの市川いずみさんと一緒に、この地の歴史を振り返ります。



水掛不動(法善寺横丁)にて

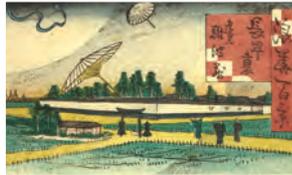


大阪・なんば編



「なんばパークス」になる前は?…古地図A B

人気の商業施設「なんばパークス」のあたりには、江戸時代、幕府が管理する米蔵「難波御蔵」があり、災害時の救援米が貯蔵されていました。古地図には、道頓堀川から開削された運河(米の輸送路)が記されています。1950~98年までは、プロ野球・南海ホークス(現・福岡ソフトバンクホークス)の本拠地「大阪球場」がありました。



長町裏遠見難波蔵(浪花百景 / 部分)
(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



大阪球場(手前は高島屋)
(提供:南海電気鉄道株式会社)



なんばパークス



1881年 新選大阪市中細見全図(大阪市立図書館デジタルアーカイブより/部分)

法善寺横丁の看板の文字が変?…古地図C

江戸時代の地図にも載っている「法善寺」(1637年創建)。法善寺横丁は、参拝客の露店から発展したもので、織田作之助の小説『夫婦善哉』にも登場して有名になりました。入口の看板は昭和の喜劇王・藤山寛美の筆によるもので、よく見ると「善」の字の横棒が一本足りません。寛美いわく「俺はそれほど善人やないから、あえて一本引いた」とのことです。



法善寺横丁の入口

木→鉄→石 な〜んだ?…古地図D

心齋橋は1622年頃、商人の岡田心齋が中心となって長堀川(現在の長堀通)に架けられ、その功績から「心齋橋」と名付けられました。江戸時代は木橋で、明治初期に鉄橋になり、後期には石橋に変貌。現在、長堀川は埋め立てられて橋は横断歩道となり、往時の姿を伝えるモニュメントがあります。心齋橋筋界隈は昔も今も流行の発信地。大正から昭和にかけては、東京で流行した「銀ブラ」をまねて、心齋橋筋をぶらり歩きする「心ブラ」という言葉が生まれました。



心齋橋のモニュメント



旧心齋橋の現在の姿



心齋橋筋商店街



昭和4(1929)年の心齋橋筋
(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

川の交差点にあった「四ツ橋」…古地図E

心齋橋の近くにある四ツ橋は、1622年頃から長堀川と西横堀川が交差した地点に架けられていた四つの橋の総称でした。



四ツ橋



昭和初期の四ツ橋
(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

番組で
チェック!

- 法善寺の水掛不動は、どうして苔だらけ?
- きつねうどんで有名な「道頓堀 今井」の前身は?
- 道頓堀川に架かる「戎橋」の名前の由来は?

村瀬哲史 (むらせ あきふみ)

東進ハイスクール 東進衛生予備校 地理講師

「楽しく学ぶ地理」をモットーとした授業で学生に大好評。

一度観ると忘れられない!そんなキャラクターでテレビ・ラジオでも活躍中!

右記のQRコードを読み込むか、当協会ホームページにアクセスしてご覧ください。(https://www.osaka21.or.jp/)



ウィズコロナ時代の芸術・文化支援

HEART & ART



HEART&ARTは、ウィズコロナ時代の芸術・文化支援のために寄付を集める取り組みです。お寄せいただいたご寄付は、アーティストや文化団体支援に充てられます。みなさまからのご寄付をお待ちしております。寄付には税の優遇措置が適用されます。

みんなの心をつないで アーティストたちを 勇気づけよう

こちらから簡単に
寄付ができます



HEART&ARTは公益財団法人関西・大阪21世紀協会が行うアーツサポート関西(ASK)の取り組みとして行われています。詳しくはアーツサポート関西ホームページまで ▶ <https://artssupport-kansai.or.jp>

スマホを使って文化芸術支援にご協力を!

「スマホ」でかんたん
少額からできる

ぽちっ と募金

あなたの想いを
「ぽちっ」と届けよう

J coin

2021年3月30日より、株式会社みずほ銀行が提供し、全国90以上の金融機関が参画するスマホ送金・決済アプリ「J-Coin Pay」内で実施している「ぽちっと募金」から、関西・大阪21世紀協会にご寄付いただくことが可能となりました。

当協会は、コロナ禍で経済的な事情を抱える若手アーティストへの支援や活動の場の提供を通じて個と個を結びつけ、さらには個と企業を繋ぎ合わせる取り組みを行っています。こうした取り組みにご賛同いただける方は、「ぽちっと募金」で500円からお気持ちの金額を当協会に寄付していただくことができます。ご寄付は、アーティストへの支援を拡充するための費用として活用させていただきます。

皆様のご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。詳しくは関西・大阪21世紀協会ホームページへ <https://www.osaka21.or.jp>

「ぽちっと募金」とは

J-Coin Pay (店頭での支払い、送金、入出金をスマホで行えるアプリ)を利用して、復興支援や国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ振興などの支援を行う団体に対し、少額から募金できるサービスです。(J-Coin Payについては ▶ <https://j-coin.jp/>)

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費 (何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費1万円

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部